

会議録（芳賀町学校運営協議会）

令和4年度 第6回芳賀町学校運営協議会会議録			
日時	令和5年2月24日（金）18:00～20:30		
場所	町民会館 多目的室		
出席者	[学校運営協議会委員] 稲川浩司、岡田由美子、野澤儀之、阿久津友希、小林史貴、岩崎進、今井由佳、 岩村智織、古谷康典、広田マリ子、今西雅子、手塚真、水沼一彦、関本一雄 （協議会委員出席14名）		
	[芳賀中学校]（校長）山本 守 （教頭）柳 利道 （地域連携教員）鶴見優希 [芳賀東小学校]（校長）小林春彦 （教頭）半田高代 （地域連携教員）高久 誠 [芳賀北小学校]（校長）小堀 隆 （教頭）手塚幸子 （地域連携教員）富士井慶 [芳賀南小学校]（校長）生井克成 （教頭）関本恵美子（地域連携教員）那花和哲		
	[教育委員会事務局] （学校教育課長）小林芳浩（学校教育課指導主事）松本 薫 （生涯学習課長）高津健司（生涯学習係長）大岡久美子 （社会教育指導員）柳岡敦子（生涯学習係主事）片桐綾乃		
	司会	高津健司 （議事進行）稲川浩司会長	書記
概要	1 開会 2 あいさつ（学校運営協議会長 稲川浩司） 3 協議事項 （1）各学校も運営状況等の評価について（学校関係者評価） （2）学校運営協議会から教育委員会への意見について 4 その他 5 振り返り 6 閉会		
協議事項 1 開会 2 あいさつ（学校運営協議会長 稲川浩司） 令和5年も2月にはいりまして、ニュースではウクライナ侵攻からちょうど一年が経ち、重いニュースが流れている。今回は第6回ということで、全体の熟議を経て取りまとめや学校関係者評価を主な議題として準備している。学校も3月の卒業式に向けて忙しいと思う。卒業する生徒児童が大きく羽ばたけるよう残り少ない時間ではあるが、協力をお願いしたい。 忌憚のない意見をいただけるよう、進行していきたい。			

### 3 協議

#### (1) 各学校も運営状況等の評価について（学校関係者評価）

芳賀東小

半田教頭： ○学校行事について

コロナ禍に対応して、工夫して行事を実施した。持久走は今まで学校の敷地の外を走っていたが、今年は学校内にした。運動会もコロナ前は一日かけて開催していたが、午前中のみで開催にした。どちらもコロナがきっかけで実施方法を変えたが、コロナが終息しても良い面は残して、最善の実施方法を検討して行事を開催するのが今後の課題である。

○学び合いについて

アンケート結果から、校内での子どもの学力も上がり、学び合いも上手く行えているところがあるが、家庭学習に対しては、昨年度と比較すると評価があまり上がっていない。学校の外での子どもの様子も課題として取り上げることについて意見をいただいた。

○学校目標「ふるさとをおもう子」

今年度はお囃子や雅楽に触れたり、太々神楽にチャレンジしたり様々な活動ができた。今度は他の地域に広めたり、地域に出て行って貢献する方法を探ったり、学校外への活動をもっと増やしたい。新聞の記事を見て町外の方から学校へお便りをいただいたので、校内だけでなく町民の皆さんにも広めてほしいと意見をいただいた。

芳賀北小

富士井先生： ○児童の地域参加を進めたい

地域のお祭り等イベントを児童へ周知して参加してもらおう。行事自体できていない地区もあると思うが、児童の地域参加を進めていきたい。

○北小地域連携イベント「地産地消イベント」

芳賀町産のものを食べるイベントがコロナ禍でできていないので、やり方の見直しを図っていきたい。例えば、芳賀町産の食材を提供してもらって給食室で調理してもらおうなど、新たな形に変えて実施していけるよう検討する。

○教室不足

八ツ木の丘に住宅が増えており、今後も児童が増えると考えられるので、対策・対応を教育委員会と考えたい。

○ボランティアはがきた

現在お掃除でボランティアに入っただき、大変お世話になっている。さらに給食配膳、低学年の習字、九九暗唱等ボランティアを増やしたい。

○地域の方々と連携を取りながら来年度も進めていきたい。

芳賀南小

那花先生： ○保護者アンケート結果より

現状は子どもの自己肯定感や自己有用感が低いので高めたい。親や先生はもちろん、おじいちゃんおばあちゃん等に頑張りを褒められるのも嬉しいのではないかと意見をいただいた。学校を中心に、そういったおじいちゃんおばあち

やんと子ども達の交流の場を提供したい。例えば、学校にシニアクラブを招いて、学校の様子を見ていただくために学校探検ツアーの開催や、コキアのイベントを学校の敷地内で行う、祖父母参観日を設けるなど、子ども達の姿を中心としながら今後できそうなアイデアを膨らませた。

芳賀中学校

柳 教 頭 : ○プロジェクトH2

2月22日にプロジェクトH2の花火の打ち上げを行い、大変好評をいただいた。地域の皆様にはご協力いただきありがたい。

○学力向上について

アンケート結果で教員が100%となっているのは熱意があり、大変素晴らしいと意見をいただいた。しかし、生徒との評価に差が見える。教員の熱意を学力向上に結び付けたい。

○安心な学校生活について

43名の生徒が、学校があまり楽しくないと回答している。教育相談などに取り組んでいるが、一人でも少なくなるよう検討していきたい課題。

○ボランティアお掃除応援隊について

次年度は活動を拡大したい、従来のように授業でのお手伝いもできるよう進めていきたい。

○地域貢献活動について

コロナもあり中学生ボランティアの参加も縮小している。学校側としても外に出て行けるような活動を増やしたい。地域からの働きかけも少なかったので増やしていきたいと意見をいただいた。

## (2) 学校運営協議会から教育委員会への意見について

稲川会長 : 前回の熟議で文言がまとまったというところまではいかなかったので、改めて確認や新たな意見があれば出していただきたい。今回は時間が少ないので、次の最後の会議でまとめるための意見や、今後学校運営協議会で掘り下げた方がよい課題などでも意見をいただきたい。

岩崎委員 : 教育委員会へ要望を出せる場がなかなかない。北小で教室が少ないという話が出た。芳賀中の声掛け事案があり、スクールバスの検討の要望が出た。学校別の事情となってしまうが、そういった事情を学校運営協議会から教育委員会へ要望を出すことはできないか。

手塚委員 : 学校運営協議会で出た話題を自治会連合会からの予算化要望という形で、町へ要望してきた。学校運営協議会では、課題は見つけられるが解決方法がないと感じたので、自治会連合会として今年度は意見した。学校運営協議会でもっと意見をまとめて自治会連合会に意見してもらえれば、委員として参加していなくても解決に向けて協力できるのではないか。

岩村委員 : 北小の教室不足について、去年も一昨年も第一要望としてプレハブ増設などを希望しているが、なかなか受けてもらえない。いい教育環境とは思えないので、対応を検討して欲しいと強く要望したい。八ツ木住民の会で中学生にアンケートを

取ってスクールバスの希望が多かった。一町一校しかない中学校なので、通学路の安全に対して行政からも配慮してほしい。

稲川会長： 学校運営協議会がどういう場で、何を目指してどういうところを目指していくのか、根本的な部分の話し合いが足りていなかった。なぜ作られて、コミュニティ・スクールになったのか、全体で議論していきたい。

単純に要望を出すだけの団体ではない。理解はしてもらっていると思うが、そういう課題に対して学校運営協議会としての解決策を議論が必要で、予算が関わったり町に要望したりするようなことであれば、学校運営協議会とは別の方法もあると考える。

手塚委員： 学校運営協議会がそういう組織でないとみんな分かっているはず。本来であれば、出席している教育委員会が意見を取り上げて、要望書を作らなくても行政として課題としないといけない。本来の姿について、主管課と教育委員会が考えていかないといけない。

岩村委員： 芳賀中の声掛け事案について、中学校の校長先生、教頭先生、被害生徒の保護者と話をした。現状を聞いたら、今でも恐怖感から一人で登下校ができず、保護者に送迎してもらっている。たまたま農家で保護者に送迎してもらえる環境にいるが、そうでなければ不登校になっていた可能性もある。生徒によっては受け止め方も違うし、被害生徒は殺されていたかもしれない恐怖を感じている。当時の学校の対応がさっぱりしていたので、保護者は重く受け止められていないと感じていた。学校に説明に行ったら学校でも登下校の安全についていろいろ考えてくれていたことがわかって、行って良かったと話していた。

保護者の要望として、子どもの所在地がわからないと不安なので、許可制で保護者の同意の元、携帯電話の所持を要望したがメリットよりもデメリットの方が大きいということから許可が出なかった。すべて却下するのではなく、家庭ごとにしっかりルールを決めてもらったり、決まりを守らなければ許可を取り消したり、なにか対応を考えていけないか。実際には学校に許可なく持たせている家庭もあるので、その方が問題になりかねないのでは。柔軟に対策を増やしていけないか。

手塚委員： R2.7.31に文部省から携帯電話を持たせていいと「携帯電話等の取扱い等について」という通知が出ているとのこと。登下校の安全のために持たせることは差し支えないと。フィルタリングをかけるなど対策をとればよいということになっている。

山本校長： 該当の通知は「個別の状況に応じて例外的に認めることができる」という文章である。

手塚委員： 実際にもっと大きな事件になったときに、このままでいいのか。

稲川会長： もう少し議論が必要な議題である。

手塚教頭： スタートの時に、地域で子ども達に何ができるか。子どもを地域で守ろうということであれば、子どもを中心として学校や地域に何ができるかという話し合いがスタートにある。

始まった当時は、挨拶ができる町にしようというところから始まり、今はもっ

と深い議論になっている。子どもを大人がどうやって守れるか、見守れるかという大きなテーマのもとに議論が進んでいる。細かい議論ももちろん必要だが、学校運営協議会としてみんなでこれをやっていきましょうと町民にアピールするものとしては「挨拶をしよう」「みんなで守ろう」などわかりやすいものを決めて広報に出すなど、そういった活動を引き継いでいくことも必要と感じる。

広田委員： 他の市町村の活動は実際に何かをやっている。芳賀町は議論だけが進んで活動ができていないので、町民は学校運営協議会について何も知らない。わかりやすいことで行動を起こした方が良いと思う。

稲川会長： 3月18日に意見の取りまとめができれば。今日の段階では取りまとめをしないという形にしたい。

#### 4 その他

##### ○第7回学校運営協議会

日 時：3月18日（土）午後1時30分

場 所：芳賀町民会館 多目的室

内 容：①一年間のふり返り（20分程度）

②「笛と太鼓でつながる～子どもを核とした地域づくり～」

講師：廣瀬 隆人 氏（一般社団法人 とちぎ市民協働研究会代表理事）

#### 5 ふり返り